

## 「ハルビンの家庭料理」をやさしいまち柏崎で

### 中華料理ハルビン



代表 本間悦子氏  
柏崎市東本町 2-7-54-1  
TEL・FAX 22-4887

の兄弟の合計七人。日本語が話せない中での生活が始まりました。悦子さんはまず、高速道路のサービスエリアで働き始めますが、日本語の習得が必要と考えて半年後、東京の日本語学校へ入ります。その半年後、

柏崎で飲食店の仕事を始めます。その後スキルアップの為職業訓練校でパソコンを習い、その紹介で印刷会社、製材所などで仕事をしました。

その時期に二人目が生まれ、二才になるまで家で子育てをしていました。仕事を再開するのに当たり、将来を考えて、飲食店を経営することを決め、まず資金を貯めるため、二年間派遣の仕事をしました。その資金を元に二〇〇二年ニコニコ通りに「ハルビン」を開店しました。その後二〇〇七年には、東本町に「ハルビン2号店」を開店。

七年にわたり二店舗での営業をしていましたが、三年前に借家だったニコニコ通りの店をやめて、えんま通りの一店舗にしました。最初はあまりはやらなかったが、えんま通りの震災復興のおかげで町の整備もどんどん良くなり、今はお店も軌道にのっている状態とのことです。

旦那さんは、日本にきて以来ずっ

と同じ会社に勤めています。子ども達は、東京で医者として働いている長男、今高校二年生の長女。この二月に長男の結婚式があり、一つ区切りがついたようです。

趣味の旅行は、年に何回か中国へ。また中国からも柏崎に友人たちが来てくれるそうです。ぜひ柏崎のことを知ってほしいと、黒竜江省の政府関係の友人にもPRしているそうです。日本に来てから辛いことも多かったと想像しますが、「柏崎の人はみんな優しい」「柏崎のみなさん、ありがとう」と話す悦子さん。

「長男は東京から戻ってくるのは難しいし、長女は自分の夢があるみたいで、お店はわたしで終わりかな？リタイアした後は、ゆつくりと旅行を楽しみたい」今後の計画を立てるのが本当に楽しみな本間さんでした。

(十人衆(取)材)

平年の三倍といわれた大雪も落ち着き、穏やかな風を感じる二月の終わりに、東本町にある「中華料理ハルビン」さんに伺い、オーナーの本間悦子さんにお話しをお聞きした。本間さんは、中国黒竜江省通河県の生まれ、日本に来るまでは獣医の資格を生かし、黒竜江省の大学の動物実験室で働いていました。大学の同級生で、同じく獣医として働いていた旦那さんと結婚し、長男を授かっていたそうです。

日本に来ることになったのは、お父さん、有三さんが中国残留孤児だったこと。妹さんが先に新潟産業大学に留学していたことも大きなきっかけとなり、一九九四年、三十歳の時に日本に来ました。帰国したのは、悦子さんのご両親、悦子さんの旦那さん、お子さん、そして三人

